

平成30年度使用

小学校用教科用図書研究資料（概評）

【特別の教科 道徳】

教科用図書北諸県採択地区協議会

1 道徳の目標の達成及び題材の構成・配列等

〔観点1〕 小学校学習指導要領に示された「特別の教科 道徳」の目標を達成するために、どのような構成・配列がなされているか。

発行者	概 評
2 東 書	<p>(1) 道徳の目標を達成するための内容項目としては、節度・節制、規則の尊重などに加え、低学年では礼儀、中学年では友情・信頼、高学年では国際理解・国際親善など発達段階を考慮した内容を多く配置している。</p> <p>(2) 題材の構成・配列については、児童の生活実態や体験活動、行事と関連付けて学ばせることで、学習した内容を普段の生活に生かし、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。</p>
11 学 図	<p>(1) 道徳の目標を達成するための内容項目としては、生命の尊さ、思いやり、家族愛に加え、低学年では節度・節制、中学年では友情・信頼、高学年では国際理解・国際親善などを多く配置している。</p> <p>(2) 題材の構成・配列については、自分との関わりを考える読みものと、人物の行動や判断、心情を自分に引き寄せて考える活動の二部構成とすることで、人物の行動や気持ちに共感し、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。</p>
17 教 出	<p>(1) 道徳の目標を達成するための内容項目としては、生命の尊さ、いじめをなくす、情報モラルを重視し、多く配置している。また、伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度に関する題材が特に多い。</p> <p>(2) 題材の構成・配列については、これまでも親しまれてきた題材に加え、学校や地域の実態に合わせて補充資料を複数活用することで、児童が主体的に考え、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。</p>
38 光 村	<p>(1) 道徳の目標を達成するための内容項目としては、生命の尊さに加え、低学年では節度・節制、中学年では親切・思いやり、高学年では伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度などを多く配置している。</p> <p>(2) 題材の構成・配列については、学校生活の実態と、それに伴う児童の1年の成長を考慮して、1年間を4つの「学習のまとめ」に分けることで、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。</p>

発行者	概 評
116 日 文	<p>(1) 道徳の目標を達成するための内容項目としては、生活目標や学校行事などとの関係を考慮するとともに、いじめの防止、情報モラル、安全の確保、社会の持続可能な発展に対応した題材を多く配置している。</p> <p>(2) 題材の構成・配列については、第6学年の「創志くんと子牛」で口蹄疫を扱うなど地域の特性を生かした題材の活用に配慮されており、当事者意識をもって考え、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。</p>
208 光 文	<p>(1) 道徳の目標を達成するための内容項目としては、生命の尊さに加え、低学年では善悪の判断、中学年では規則の尊重、第5学年では相互理解、第6学年では伝統と文化の尊重などを多く配置している。</p> <p>(2) 題材の構成・配列については、生命の尊さなど特に考えさせたい題材の次ページに内容を補填するコラムを設けることで、児童の興味・関心を喚起し、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。</p>
224 学 研	<p>(1) 道徳の目標を達成するための内容項目としては、生命の尊さに加え、低学年ではしっかり生きる、中学年では仲よく生きる、高学年ではよりよく生きるを重点テーマとして設け、題材を多く配置している。</p> <p>(2) 題材の構成・配列については、主題名を本文と出会った後に示すなど、特定の価値観を押し付けることのないよう配慮され、考えを深めながら児童の問題意識「問い」を大切にし、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。</p>
232 廣あかつき	<p>(1) 道徳の目標を達成するための内容項目としては、善悪の判断・自律・自由と責任、親切・思いやり、生命の尊さを、特に低学年では節度・節制、低・中学年では規則の尊重も加えて重点指導内容とし、多く配置している。</p> <p>(2) 題材の構成・配列については、題材をもとに考え、話し合う共働的な学習を通して別冊の道徳ノートに書くことにより、自問と内省へと導くことで、多面的・多角的な思考を促し、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。</p>

2 道徳性を養う指導を行うための内容の充実

〔観点2－(1)〕 現代的な課題や身近な社会問題に関する題材（いじめ問題等）を取り上げるなど、主体的に自分との関わりで考えられるように、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
2 東 書	<p>(1) いじめ問題について、全学年導入ページでいじめについて考えるという示唆を与え、いじめを直接扱った題材と、いじめをしない許さない心を育てるのに適した題材の2つを組み合わせ、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。</p> <p>(2) 情報モラルについて、メールやインターネットなどの情報や情報機器を扱う際に気を付けるべきことを扱った題材をはじめ、身近で興味・関心をもって学習できる題材を取り上げ、自分の生活と結びつけて考えさせるような工夫が見られる。</p>
11 学 図	<p>(1) いじめ問題について、「公正、公平、社会正義」を中心に様々な道徳的価値と関連させた題材があり、日常生活で起こりうる状況の具体例を挙げて生活に生かすページを設け、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。</p> <p>(2) 情報モラルについて、発達段階に合わせ、様々な生活場面を道徳的諸価値と関連させて、情報の受け手や発信者としてのルールを身に付けるための心構えを養う題材を取り上げ、自分の生活と結びつけて考えさせるような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) いじめ問題について、学校生活において、正義と責任、男女平等、自他の敬愛と協力などの視点から、よりよい人間関係を築くための題材を発達段階に応じて設定し、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。</p> <p>(2) 情報モラルについて、個人情報や情報発信の際のルールやマナー、相手への影響を、正義と責任、自他の敬愛と協力などの道徳的価値と関連させた題材を取り上げ、自分の生活と結びつけて考えさせるような工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) いじめ問題について、学年の初めに配列し、友達との関係づくりに生かす配慮がなされ、いじめをしない、させない、ゆるさない、見過ごさない力を系統的に育成する題材とコラムを設定し、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。</p> <p>(2) 情報モラルについて、決まりを守るということを根幹に、情報社会の倫理的な側面を実生活に基づいて、発達段階に応じて具体的に考えられる題材を取り上げ、自分の生活と結びつけて考えさせるような工夫が見られる。</p>

発行者	概 評
116 日 文	<p>(1) いじめ問題について、全学年において最も重要な課題として取り上げ、多面的・多角的な視点から道徳的諸価値と関連させた「いじめをなくすために」という題材を設け、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。</p> <p>(2) 情報モラルについて、情報社会の倫理や法の理解と遵守を中心に、自由と責任、節度・節制、情報のすれ違いなどの観点で、学年の発達段階を考慮した題材を取り上げ、自分の生活と結びつけて考えさせるような工夫が見られる。</p>
208 光 文	<p>(1) いじめ問題について、直接的・間接的に児童自身の問題として捉えられるような題材を選定し、身近な生活場面を取り上げた「みんな仲よし楽しい学校」というページを設け、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。</p> <p>(2) 情報モラルについて、生活の様々な場面で適正に行動できる基となる考え方や態度について考えられるように、スマホ依存、著作権侵害などの身近な問題を扱った題材を取り上げ、自分の生活と結びつけて考えさせるような工夫が見られる。</p>
224 学 研	<p>(1) いじめ問題について、いじめを生まない力を引き出すために、さまざまな内容項目と関連させ、他人を理解し尊重して他者と共によりよく生きることを扱った題材を配列し、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。</p> <p>(2) 情報モラルについて、発達段階に応じて情報機器を使う時の約束、気を付けること、情報の扱い方などを実生活に基づいて具体的に考えられる題材を取り上げ、自分の生活と結びつけて考えさせるような工夫が見られる。</p>
232 廣あかつき	<p>(1) いじめ問題について、いじめをしない、させない、許さない、見過ごさない力を育成するために、善悪の判断、敬愛の念や協力、社会正義の実現などに関連させた題材を通して、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。</p> <p>(2) 情報モラルについては、インターネット上での人間関係のトラブルや犯罪などについて、自ら判断し責任ある行動を取ることや、ルールを守って利用することの大切さを扱った題材を取り上げ、自分の生活と結びつけて考えさせるような工夫が見られる。</p>

2 道徳性を養う指導を行うための内容の充実

〔観点2－(2)〕 充実した言語活動や、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習などが設定され、多面的・多角的に考えられるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
2 東 書	<p>(1) 言語活動については、自分の意見や感じ方を文章で表現する場面を教科書の中に設けることで、児童一人一人の記録の積み重ねから気づき方や考え方の変化や自らの成長を振り返ることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 問題解決的な学習については、「とびらのページ」で問題意識を深め、「題材の冒頭」では、考えるポイントを示して、問題の焦点化を図っている。また、「考えるステップ」では、話合いの手引きとして、児童が、学習過程に沿った話合いをしながら考えを深められるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 体験的な学習については、各学年で、体験的な活動が効果的に図れるよう題材の内容を精選することで、道徳的実践力につながるような工夫が見られる。</p>
11 学 図	<p>(1) 言語活動については、分冊「活動」を用意し、多面的・多角的な言語活動が可能な発問には、「アクティブ」マークを付けることで、自らを見つめ直し、成長や学びの深まりを記録することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 問題解決的な学習については、発問「かんがえよう」を設定し、自分のこととして捉え、深い学びに向かえるような配慮をしている。また、読み物教材の中の問題場面を話し合う発問「はなしあおう」を適した題材に配置し、対話的な学びができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 体験的な学習については、題材の特性に応じて役割演技や動作化の授業展開に応じた発問「やってみよう」を設定することで、道徳的実践力につながるような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 言語活動については、様々な考え方もつ児童の立場を考慮した、多面的・多角的に考えられる題材を数多く配置することで、自分の考えを述べて、友だちの考えを聞き、みんなで話し合いながら道徳的価値を深められるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 問題解決的な学習については、内容項目ごとに主題への誘い（導入）を設け、教材を読む前に、どのような価値について学習するのかなどの見通しがもてるようにしている。また、「学びの手引き」により、道徳的価値そのものへの問いを考えることで、価値理解を深められるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 体験的な学習については、「アクティビティ」や「モラルスキルトレーニング」などを各所に取り入れることで、より深く道徳的価値を深められるような工夫が見られる。</p>

発行者	概 評
38 光 村	<p>(1) 言語活動については、学んだことや自分の心の変化を自由に書き留めて振り返ることができる「学びの記録」を活用することで、自分に自信をもち、行動につなげることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 問題解決的な学習については、主体的な学びのために、学習のめあてを示し、課題をしっかりと把握させたり、道徳的価値に迫る発問や自分のこととして考えられるような問いを提示したりすることで、価値の一般化を図ったり、道徳的価値を自分や日々の生活に結びつけたりするような工夫が見られる。</p> <p>(3) 体験的な学習については、「～になったつもりで話してみよう」「演じてみよう」を設定することで、児童が切実さをもって道徳的価値について考えられるような工夫が見られる。</p>
116 日 文	<p>(1) 言語活動については、別冊「道徳ノート」の活用を図ることで、児童の道徳性の成長の様子や、学習状況を継続的に把握したり、児童自らが多面的・多角的な考え方に気付いたりすることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 問題解決的な学習については、主体的に解決していくステップを例示したり、道徳的実践意欲を育成するための「心のベンチ」の特設ページを設定したりすることで、道徳的問題を自分のこととしてより深く捉え、道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 体験的な学習については、役割演技や話し合い活動などが豊富に盛り込まれることで、豊かな思考・対話を促し、道徳的価値の理解を深められるような工夫が見られる。</p>
208 光 文	<p>(1) 言語活動については、教材と読書活動を関連させたり、コラム「ことばのたからもの」や「学びの足あと」を活用したりすることで、多様な感じ方や考え方に接し、考えを深め、判断し、表現するなどの力を育むような工夫が見られる。</p> <p>(2) 問題解決的な学習については、「問いをもつ（導入）」「まとめる（終末）」「広げる（発展）」を設置し、1時間の授業の目的や流れを明確にしながら、様々な「問いかけ」を行うことで、道徳的価値を実感し、様々な視点から物事を理解し、多面的・多角的に考えることができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 体験的な学習については、「やってみる」や「みんなで作ってみよう」の活用により、授業で学習したことが生活の場での体験につながる意識付けができるような工夫が見られる。</p>

発行者	概 評
224 学 研	<p>(1) 言語活動については、異なる複数の意見を提示して考えさせたり、一人一人の価値観が違うことを前提に他者と対話させたりすることで、物事を多面的・多角的に考えることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 問題解決的な学習については、児童自身に問題意識をもたせるため、自分の考えをまとめてから有意義な話し合いにつなげさせたり、学習の道筋を「学び方のページ」に提示したりすることで、児童が自ら主体的に課題を発見し、考えを深め、自己を見つめることができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 体験的な学習については、「学び方のページ」の中の「やってみよう」を活用することで、教材に関連した役割演技などにより、道徳的価値を実感できるような工夫が見られる。</p>
232 廣あかつき	<p>(1) 言語活動については、「道徳ノート」の活用を図り、書く活動を重視しながら、より深く自己を見つめ、考え、振り返ることで、心の成長を実感したり、新たな道徳的課題を見つけたりすることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 問題解決的な学習については、児童の主体的・対話的で深い学びを促すための手がかりとなる「めあて」の提示や道筋を分かりやすく示すためのいくつかの「問い」を載せたり、「自我関与」できる問いを配置したりすることで、道徳的価値を自己と関連付けて考えることができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 体験的な学習については、役割演技や読書活動などを通して、内容項目と関連させた活動をすることで、児童が一層道徳的価値を深め、学習が広げられるような工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 本地区の願いや思い、児童の実態等を踏まえ、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに、児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
2 東 書	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、道徳では何をどのように学習するのかのイメージをもたせる「道徳の時間がはじまるよ」において、道徳の時間の具体的場面や道徳に関わる日常の生活場面をわかりやすく示すことで、主体的に考えることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとって分かりやすくするために、題材が「とびらのページ」「考えるポイント」「考えるステップ」と段階を踏んで題材に含まれる道徳的価値についての問題を見つけ考える構成にすることで、児童が問題意識をもちながら学習が進められるような工夫が見られる。</p>
11 学 図	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、道徳の時間にどのようなことを考え、どのように話し合いを進めていくかを示す「道徳の学習をはじめよう」において、吹き出しを使った具体的な児童の言葉で表記することで、課題意識をもって学習できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとって分かりやすくするために、各題材の構成が、人物の行動や気持ちに共感したり自分との関わりを考えたりする「読みもの」から多面的・多角的な見方・考え方を育てる「活動」の流れになる構成にすることで、道徳的な実践意欲を高めながら学習が進められるような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、今の自分自身を見つめ考える「道徳の学習がはじまるよ」において、今の自分と目標について書き込むことで、道徳の時間に常に自分を意識し、巻末において1年間の目標について児童自身が振り返りをし、心の成長が実感できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとって分かりやすくするために、各題材において冒頭で主題への誘いの言葉を投げかけ、その題材でどのような道徳的価値について学習するのかや、何が問題になっているのかを把握できるようにすることで、本時の道徳的価値を常に意識して学習が進められるような工夫が見られる。</p>

発行者	概 評
38 光 村	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、児童が道徳の時間を端的にイメージするための「どうとくのじかんは」において、道徳の時間は何を考え、どのように学習を進めるかをわかりやすく示すことで、児童が主体的に学習することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとって分かりやすくするために、同じ内容項目を含む題材2つと、実際の生活にある課題を扱ったコラムを組み合わせた「ユニット」を年間5か所設けて連続的・発展的に同じ内容項目に触れ合うようにすることで、児童が自己の生き方についての考えを深め、学習が進められるような工夫が見られる。</p>
116 日 文	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、道徳はどんなことを学習するのかを理解させる「道徳のとびら」において「じぶん・まわりのひと・みんな・いのち・しぜん」の各観点から、児童が学習内容のつながりを分かりやすく捉えることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとって分かりやすくするために、各題材に入り込むきっかけとなる「問いかけ」を示して道徳的価値への方向付けをするとともに、各題材の冒頭で中心的に心情や行動を追う登場人物を示してその人物を意識して読めるようにすることで、思考を深めながら学習が進められるような工夫が見られる。</p>
208 光 文	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、道徳の時間の進め方や、どんな自分になりたいかを考えさせる「さあ、道徳の時間が始まります」を設けることで、児童が自分自身についての目的意識をもったり自分を意識したりしながら学習を進めたりしていくことができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとって分かりやすくするために、各教材において児童によりそう子どものキャラクターが、場面ごとに欄外で児童の思考の流れに沿いながら登場人物に対する共感や疑問の言葉、考えるポイント等を投げかけ、児童が多面的・多角的な思考をしながら学習が進められるような工夫が見られる。</p>

発行者	概 評
224 学 研	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、道徳の時間に学ぶ内容と学ぶ方法を簡単に示した「道徳の時間が始まるよ」において、自分のことについて書くことで、今の自分自身を自覚し、課題意識をもって道徳の学習を進めていくことができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとって分かりやすくするために、題材学習後に「ふかめよう」「つなげよう」「やってみよう」「ひろげよう」のコーナーを設け多様な学び方ができるようにすることで、児童に異なる複数の意見を促したり、学んだことを日々の生活での実践につなげたりする学習が進められるような工夫が見られる。</p>
232 廣あかつき	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、道徳の時間の進め方や道徳の時間に行うそれぞれの活動にどのような意義があるのかが示された「道徳の時間はこんな時間」を設けることで、児童が目的意識をもって学習を進めていくことができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとって分かりやすくするために、題材末に「考えよう話し合おう」を設定し、学習の進め方を示す「学習の道すじ」と学んだことを実際の生活に生かす「学習を広げる」コーナーを設けることで、今や今後の自分について考えを深めながら学習が進められるような工夫が見られる。</p>